



地域と結ぶ

順天堂大学練馬病院ニュース



地域の皆さまの
心と身体のおアシスで
ありたいと願っています。
何なりと
ご相談ください。

整形外科・スポーツ診療科の紹介

整形外科・スポーツ診療科 教授 野沢雅彦

順天堂大学練馬病院は、開院して6年を過ぎました。整形外科においても、開院当初より“患者さん中心の医療”を心がけ、患者さんからの信頼を得るべく最大限の努力を行ってきました。開院時は、4人のスタッフでスタートいたしましたが、現在、整形外科専任の医師は13名おり、それぞれが外来、病棟を受け持ち、診療を行っています。

ご高齢の方を含め、関節、脊椎などの運動器に障害を持つ患者さんに、早期に社会復帰していただき、健康な生活を取り戻していただくために、最善で心温まる治療を目指しています。特に地域からの要請が強くある救急患者さんに対しては、毎日、担当医師をおき、適切な対応がすぐ取れるようにしています。

また、当科の特徴として、股関節外科、膝関節外科、肩関節外科を専門にしている医師が多く、患者さんの社会への早期復帰のお手伝いをするために、関節鏡等を用いた多くの低侵襲手術を行っています。



コンピューターナビゲーションシステムを用いた手術を行っている様子です。



人工関節の手術を行っています。



カンファレンス風景です。

股関節外科では難易度の高い寛骨臼回転骨切り術や、コンピューターナビゲーションシステムを用いて10cmの少切開で人工股関節全置換術を行っていますが、これらの手術を受けられる患者さんは、殆どの方が自己血輸血で手術を行っています。



教授 野沢雅彦

また、スポーツ障害による膝靭帯損傷、半月板損傷などは関節鏡を用いた手術を行い最新の治療を行っています。

習慣性肩関節脱臼、野球肩、腱板損傷などの肩の疾患は、膝と同様に関節鏡を用いて修復を行い、極めて短い入院期間で退院することができます。

患者さんの数が多いため、外来診療では長時間お待たせして迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、丁寧な診察を心がけておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。なお、初診患者さんにつきましては、Kブロック診察室で初診外来を開設し、一定人数の初診患者さんに対応しています。

今後とも当院を受診されます患者さんのお役に立てるよう、整形外科・スポーツ診療科の医師全員が努力してまいりますので、宜しくお願い申し上げます。



整形外科・スポーツ診療科スタッフです。

やっぱり、患者さん一人ひとりを診ることが大切です!

乳腺外科 准教授 藤澤 稔

去る9月2日(金)～4日(日)に仙台で開催された、第19回日本乳癌学会において、ある講演の中で聞いた言葉についてご紹介します。



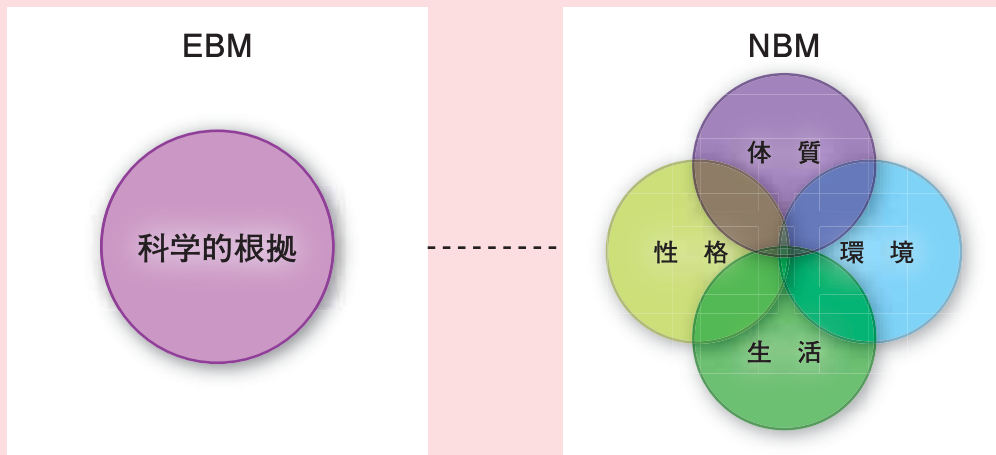
准教授 藤澤 稔

現在は、「EBM」(Evidence Based Medicine:エビデンス・ベースド・メディスン)すなわち、「科学的根拠に基づいた治療をしよう」という考え方が主流です。この言葉は、私たちの意識にも染み着いているように思います。

一方、一人ひとりの患者さんの「体質、性格、生活、環境」などを頭に入れながら治療をしていくと言う考えが、「NBM」(Narrative Based Medicine:ナラティブ・ベースド・メディスン)と呼ばれるものです。「科学的根拠も大切だけれども、患者さん一人ひとりを診ることも大切。」と言う考え方です。

乳がんを治療する上で科学的根拠はもちろん重要ですが、それだけで治療方針を決めることはできません。患者さんがどのような治療を望むのかを聞いた上で、一人ひとり個別に話し合っていて決めていきます。

順天堂大学練馬病院の乳腺外科では、医者だけでなく、看護師や臨床心理士も患者さんの生活や習慣を聞きながら、チームとして精神面も含めた治療を行っています。



栄養食事相談のご案内

順天堂大学練馬病院では、食事についてのお悩みやご相談のある方を対象に、休診日を除く毎日、個別に栄養相談を行っています。

私たち4名の管理栄養士が皆さまの立場に立ち、優しく親身になってアドバイスいたします。

食事療法を必要とされる方で、栄養食事相談を受けたことが無い方は、是非一度ご相談されることをお勧めいたします。

栄養食事相談は、予約制で1回 30分です。ご希望の方は、担当医師にご相談ください。



このほか、集団糖尿病教室を3ヶ月に1回、土曜日に開催しています。担当管理栄養士は、テレビ朝日「みんなの家庭の医学」に出演している高橋徳江です。詳細については、糖尿病・内分泌内科の外来に掲示を行っていますので、ご覧ください。参加ご希望の方は、外来担当医師にお申し出ください。



テレビ朝日「みんなの家庭の医学」



認定看護師の活動 看護部

認定看護師とは、より良いケアを目指して日本看護協会が認定している制度です。研修を受け、「十分な経験を積み、高度な技術と知識を有することが認められた者」のことです。

現在、順天堂大学練馬病院には、8名の認定看護師がいます。それぞれの専門領域において、患者さんとご家族のケアを行っています。

一部を紹介しますと、皮膚・排泄ケア認定看護師は、人工肛門や褥瘡（床ずれ）のある方へのケアを行っています。木曜日には、WOC（皮膚・排泄ケア）看護専門外来を担当しています。緩和ケア認定看護師は、がん患者さんとご家族の相談窓口となり、「患者・家族ミニレクチャー&交流会」などを開催しています。がん化学療法認定看護師は、外来化学療法室で外来通院しながら治療を受けられている方へのケアを行っています。



緩和ケア認定看護師
森岡美由紀



がん性疼痛看護認定看護師
上田 順子



皮膚・排泄ケア認定看護師
貴田 寛子



救急看護認定看護師
鈴木 梢



集中ケア認定看護師
矢吹 道子



感染管理認定看護師
李澤 康雄



がん化学療法看護認定看護師
森 佐知子



糖尿病看護認定看護師
畠 暁美

C-cube(シーキューブ)プロジェクト 看護部

夏休み真っ盛りの8月13日(土)に、順天堂大学練馬病院で3回目の病院体験イベントを行いました。

この催しは「C-cube プロジェクト」と題する活動で、練馬区内(Community)の子ども(Children)たちとの交流(Communication)を深め、地域に根ざし開かれた病院になることを目指しています。

当日は、練馬区内の小学生18名が参加しました。実際に聴診器を用いて自分やお友だちの心音を聴取したり、手術室での腹腔鏡下手術のシミュレーションの操作や手術針による縫合など、様々な医療体験に挑戦しました。



聴診器にて自分の心音を聴いています。



内視鏡手術の練習をしています。



縫合の練習をしています。

初めは緊張気味の子どもたちでしたが、一つ一つ医療行為を体験するたびに「難しいね」「面白い」など感想を言い合いながらも、真剣な表情で取り組んでいました。



検査室にて顕微鏡で血液の細胞を見ました。



栄養科の厨房を見学しています。



みんなで記念撮影しました。

今回の体験を通じて、「大きくなったら病院で働いてみたい」と思ってくれる子どもたちが、一人でも多く誕生してくれればと願っています。そんなことを夢見て、これからも「C-cube プロジェクト」の活動を進めていきたいと思ひます。

東京消防庁より感謝状をいただきました。

本年5月豊島区内において、心肺停止状態に陥り生命の危機に瀕していた方に対し、適切な応急処置を行ったとして、順天堂大学練馬病院の臨床研修医・山本健治郎医師が東京消防庁より感謝状をいただきました。



インフルエンザに注意しよう!

手洗い、うがいを徹底し、マスクの使用や、栄養とバランスの取れた食事、十分な睡眠を取りましょう。

